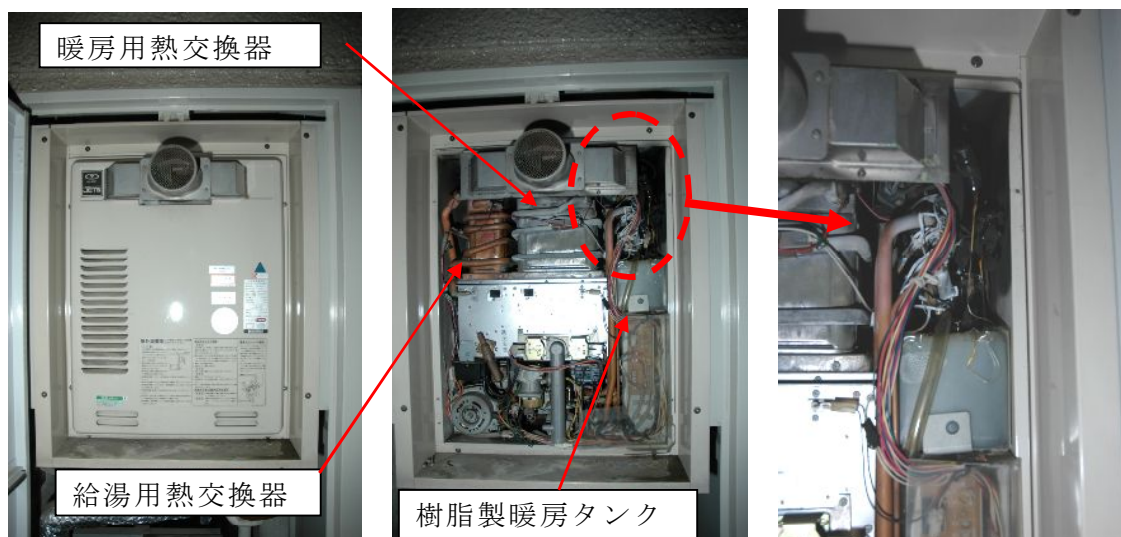


ガス給湯暖房機に起因する発煙

概要

耐火構造 15 階建て共同住宅の 5 階において、玄関横のパイプスペース内に設置されている給湯暖房機内の樹脂製暖房タンクの一部と周辺の電気配線の一部が焼損したものです。

家人の話では、給湯暖房機で浴槽にお湯を入れながら電話をしていた時に、突然電気のブレーカーが落ちて、プラスチックの燃えるような臭いがしたので、給湯暖房機を見ると、排気口から煙が出て、パチパチという音が聞こえたとのこと。なお、焼損は機器内部で留まっており、自然鎮火していました。



給湯暖房機の状態

前板を外した状態

焼損した暖房用水槽付近

原因概要

長期に渡る使用（1988 年 7 月製造）で、燃焼・停止の熱交換の作用が繰り返されたことにより給湯用熱交換器の右側面に小さな亀裂が生じ、そこから高温の排気が漏れはじめ、徐々に亀裂が拡大して、近くにある樹脂製暖房タンクが焼損したものです。

類似事象の防止対策

既に、メーカーが 7 月 27 日付けで、全国で約 2 万 5 0 0 0 台の自主点検及び部品取付けに応じる発表をしています。この給湯暖房機は、主にマンション等に設置されていることが多いようです。メーカー側も販売履歴等から設置場所を特定し、該当機種 of 点検・修理を進めています。下記の機種をお使いの方は、該当するメーカーに連絡して下さい。

（ハーマン）・・・YG2000R シリーズ、YG2002R シリーズ

（大阪ガス）・・・44-880～884、44-804、44-885～889

・・・火災が発生した場合は、直ぐに消防(119)へ通報してください。・・・